

# トップ製薬企業を目指して

## - 2013年総括と2014年計画 -

中外製薬株式会社  
代表取締役社長 COO  
小坂 達朗

2014.1.30/31

## 将来見通し

---



本プレゼンテーションには、中外製薬の事業及び展望に関する将来見通しが含まれていますが、いずれも、既存の情報や様々な動向についての中外製薬による現時点での分析を反映しています。

実際の業績は、事業に及ぼすリスクや不確定な事柄により現在の見通しと異なることもあります。

# 中期経営計画 ACCEL 15



## ＜重要変革テーマ＞

1. 営業生産性の向上
2. グローバル開発の加速
3. 革新的プロジェクトの連続創出
4. 経営基盤の更なる強化

新中期  
経営計画  
ACCEL 15  
(2013-15)

トップ製薬  
企業像実現  
(2010年代後半)

Sunrise  
2012  
(2008-12)

\*CAGR: 年平均成長率

\*\*2012年平均の為替レートでの一定ベース

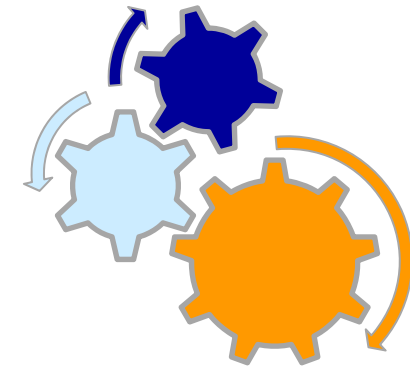
## 定量ガイダンス

- Core EPS CAGR\* (2012-15)  
✓1桁台半ば～後半\*\*
- Core EPS 配当性向  
✓平均50%を目処



## ACCEL 15の進捗（１）

- 3つの新発売：パージェタ、ボンビバ、アクテムラ皮下注
- 3つの主要適応拡大：アバスチン、タルセバ
- エディロールのNo.1ブランド化
- アクテムラのブロックバスター化達成
- AF802国内申請、米国Breakthrough Therapy指定
- 7つの新規プロジェクト着手





## ACCEL 15の進捗（２）

変革テーマ	成果
営業生産性 向上	<ul style="list-style-type: none"><li>● コンサルティングプロモーション、eプロモーション</li><li>● メディカルエビデンス推進体制強化</li><li>● コントラクトMRの活用</li></ul>
グローバル 開発加速	<ul style="list-style-type: none"><li>● 自社創製抗体プロジェクトの順調な進展 ACE910, CIM331, SA237</li></ul>
革新的 プロジェクト 連続創出	<ul style="list-style-type: none"><li>● CPRの本格稼働</li><li>● 次世代抗体技術の進化</li></ul>
経営基盤 強化	<ul style="list-style-type: none"><li>● 戦略的基盤強化に向けた設備投資</li><li>● 海外事業の拡充</li><li>● ダイバーシティの加速</li></ul>

## 2013年度の総括



売上収益の力強い伸びで円安による原価・経費増を補い、増収増益を果たした一年

【億円】	2012年 1-12月 実績	2013年 1-12月 実績	対前同		2013年 1-12月 期初予想	達成率
売上収益	3,866	4,237	+371	+9.6%	4,160	101.9%
製商品売上高	3,752	4,013	+261	+7.0%	3,943	101.8%
ロイヤルティ及び その他の営業収入	113	224	+111	+98.2%	217	103.2%
営業利益 (Core)	756	799	+43	+5.7%	775	103.1%
Core EPS	85.64	94.69	+9.05	+10.6%	92.57	102.3%

## 2014年度の見通し



主力製品の成長とロイヤルティ等の堅調な伸びにより増収  
為替を主因とする原価と経費の増加により減益

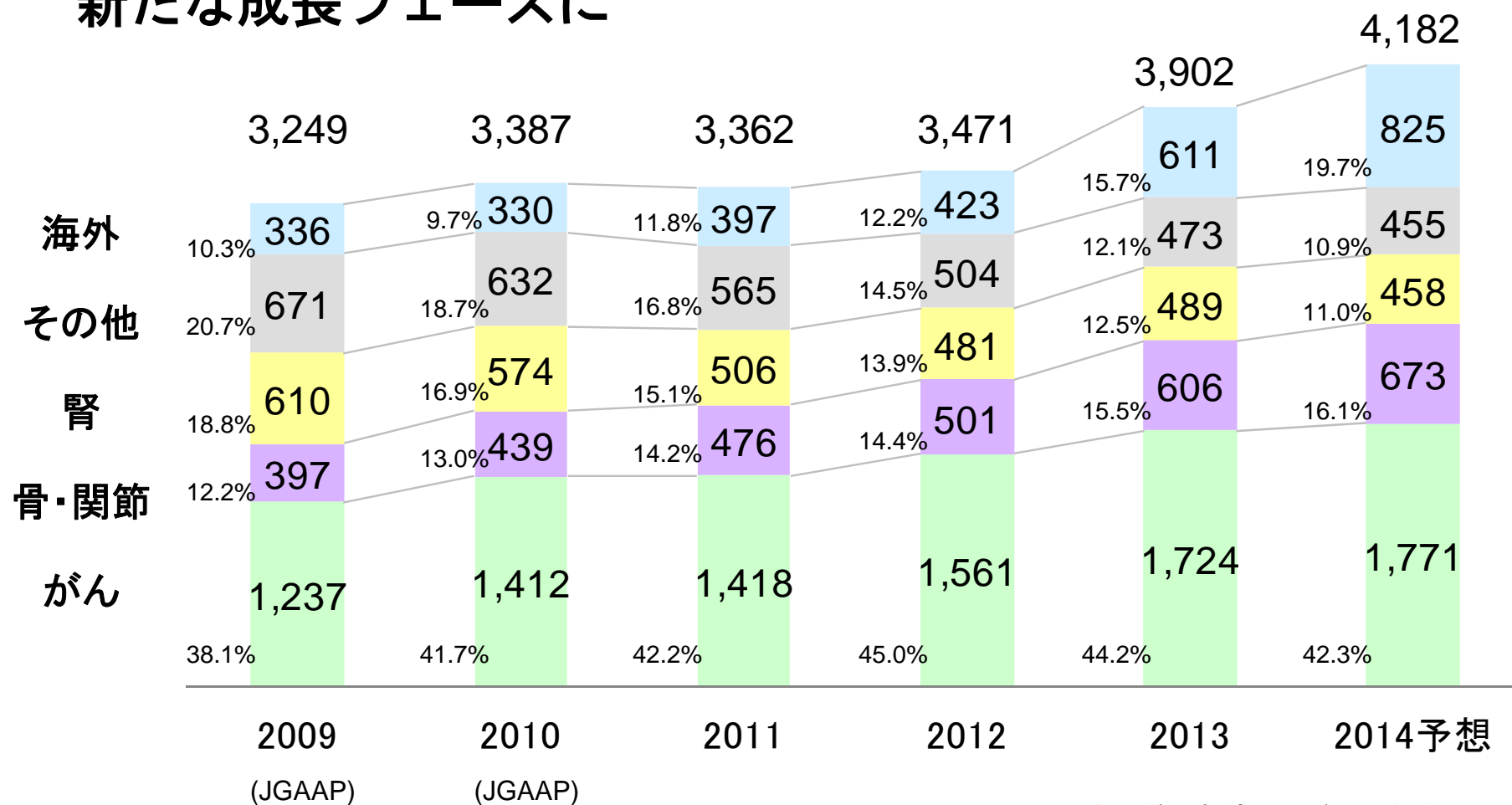
【億円】	2013年 1-12月	2014年 1-12月 予想	対前同	
売上収益	4,237	4,510	+273	+6.4%
製商品売上高	4,013	4,270	+257	+6.4%
ロイヤルティ及び その他の営業収入	224	240	+16	+7.1%
営業利益 (Core)	799	710	▲89	▲11.1%
Core EPS	94.69	82.62	▲12.07	▲12.7%

# タミフルを除く製商品売上高推移



新製品・適応拡大品の寄与により、  
新たな成長フェーズに

【億円】



\*2012年以前の数値はエビスタを除く



# 2014年の方針

トップ製薬企業像実現  
ACCEL 15達成

## 製商品売上高の力強い成長

- 新製品「パージェタ」「ボンビバ」の着実な成長軌道入り
- 「アクテムラ」「アバスチン」「ミルセラ」等 成長ドライバーの市場浸透加速

## グローバル開発の加速

- AF802を第二の「アクテムラ」に育成
- 自社創出抗体ACE910、CIM331、SA237の臨床開発加速

## 革新的自社開発プロジェクトの連続的な創出

- 次世代抗体技術を核とする充実した創薬基盤からの迅速なプロジェクト創出

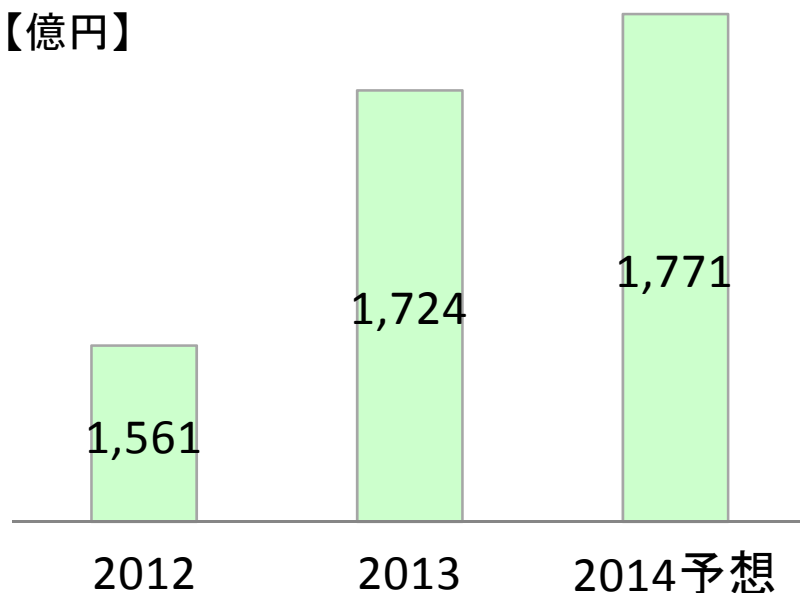
## 人財・組織風土の改革の加速



## 2014年の課題-がん領域

高い専門性を活かしたコンサルティング・プロモーションを軸に  
リーディング・カンパニーとしてがん治療に貢献する

【億円】



### HER2フランチャイズ

- 乳がん領域の充実した製品ラインアップを活かし、パージェタの市場浸透を最速で実現
- カドサイラの早期発売を実現し、HER2フランチャイズとしてPHC\*に貢献

### アバステン

新規適応症（悪性神経膠腫・卵巣がん）の着実な展開と、肺がん・乳がんでのさらなるシェア拡大

### R&D

- AF802の早期承認取得
- ゼロダ適応拡大申請（胃がん術後補助療法）

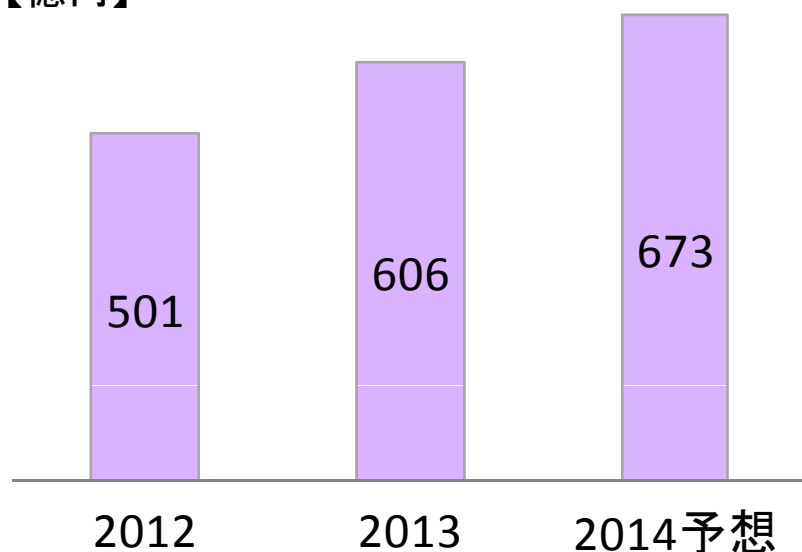
\*PHC: Personalised healthcare (個別化医療)



## 2014年の課題-骨・関節領域

新製品ボンビバ、主力製品アクテムラ、エディロールの拡大を軸に  
二桁台の成長率を目指す

【億円】



(エビスタを除く)

### アクテムラ

皮下注製剤の成長を最重要課題とし、長期処方制限解除を見据え、IL-6製剤の有用性を再度訴求

### エディロール

経口骨粗鬆症治療薬のトップブランドとして、市場をリードする成長を実現

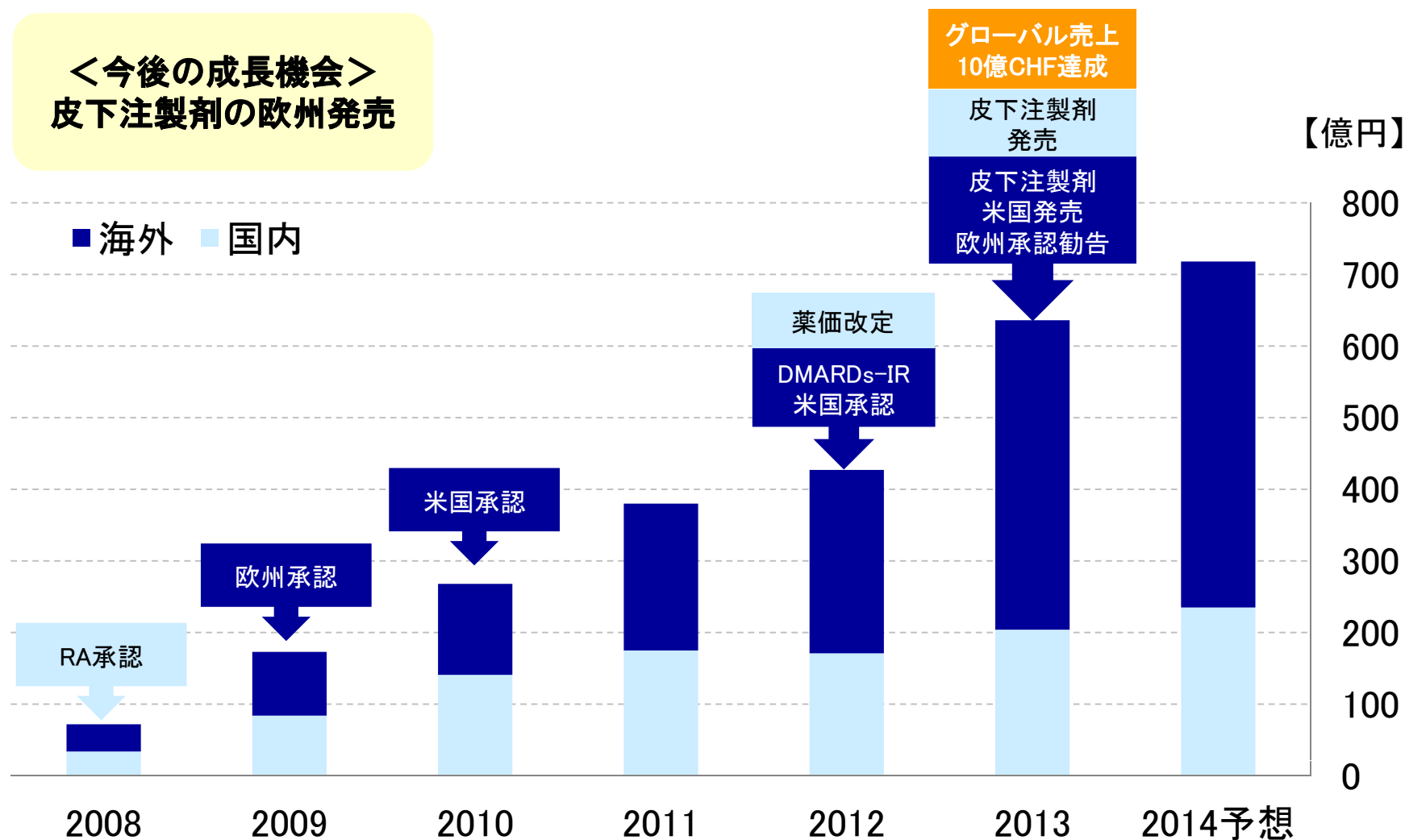
### ボンビバ

製品特性（唯一の月一回静注）の訴求による早期の市場浸透

# アクテムラ：ブロックバスター化達成



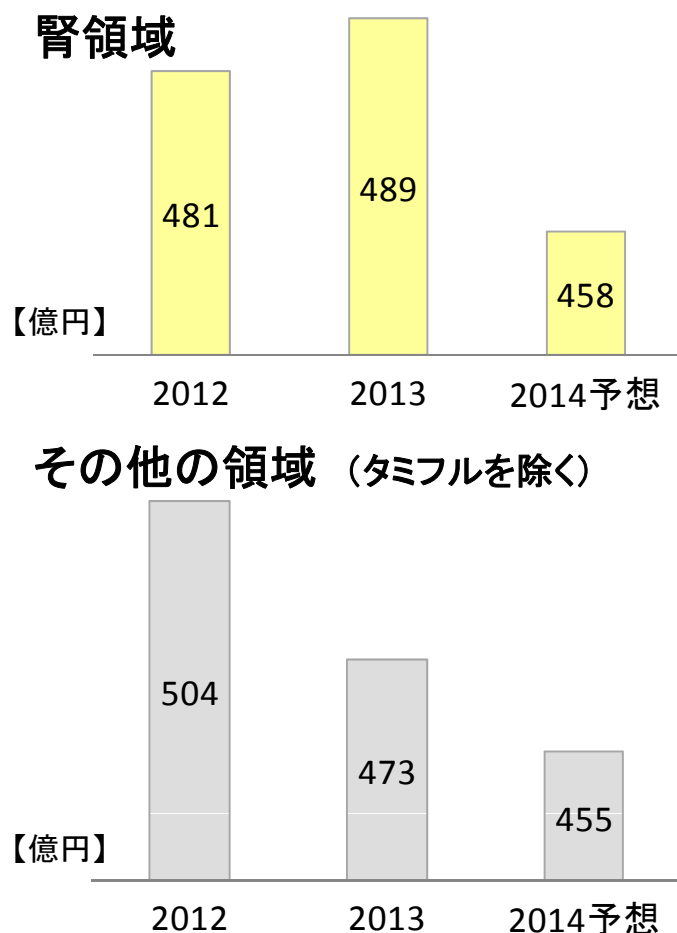
＜今後の成長機会＞  
皮下注製剤の欧州発売





## 2014年の課題-腎領域/その他の領域

ミルセラの拡大を最重要事項とし、並行して既存製品のプレゼンス維持  
自社プロジェクト開発加速



### ミルセラ

製品特性を活かした保存期市場でのシェア拡大を最優先事項とし、着実な成長を実現する

### ペガシス

他社抗ウイルス剤との併用投与、単独少量長期投与等の治療選択肢の広さを訴求し、縮小する市場で売上維持

### R&D

自社創製抗体ACE910、CIM331、SA237のグローバル開発加速

# 革新的医薬品の創出に向けて



中外独自の抗体、低分子創薬技術を  
核に革新的な医薬品を連続的に創出



# 2013年12月期 連結決算概要 (IFRS)

中外製薬株式会社  
取締役専務執行役員 CFO  
板谷 嘉夫

2014.1.30/31

# 2013年12月期（通期） 連結決算概要



## ■ 売上収益 4,237億円（前年同期比 +9.6%）

- 国内製商品（タミフルを除く）：がん領域・新製品の成長がエビスタ販売提携終了と薬価改定影響を上回り増加（同 +2.6%）
- 海外製商品：円安影響及びアクテムラ輸出増により約4割増（同 +44.4%）
- ロイヤルティ及びその他の営業収入：マイルストーン収入の増加により倍増

## ■ 原価・経費

- 売上原価：円安を主要因として製商品原価率が悪化
- 経費：新製品発売・適応拡大に伴う活動の増加、CPRの本格稼働を中心とした研究開発費の増加などにより、経費全体として約二桁の増加

## ■ 損益

- IFRS損益： 営業利益787億円（同 +5.5%）  
当期利益519億円（同 +10.8%）
- Core営業利益：799億円（同 +5.7%）
- Core EPS： 94.69円（同 +10.6%）



# IFRS実績及びCore実績 1-12月実績



【億円】	IFRS実績 2013年 1-12月	Non-Core調整		Core実績 2013年 1-12月
		無形資産・ 合併会計	その他の 除外事項	
売上収益	4,237			4,237
製商品売上高	4,013			4,013
ロイヤルティ及び その他の営業収入	224			224
売上原価	▲ 1,870	+9		▲ 1,861
売上総利益	2,367	+9		2,376
経費計	▲ 1,579	+1	+1	▲ 1,577
販売費	▲ 716	+0	+1	▲ 715
研究開発費	▲ 743	+1	+1	▲ 741
一般管理費等	▲ 121		▲1	▲ 121
営業利益	787	+11	+1	799
金融費用	▲ 0			▲ 0
その他の金融収入(支出)	▲ 18			▲ 18
税引前当期利益	769	+11	+1	781
法人所得税	▲ 251	▲4	▲0	▲ 255
当期利益	519	+7	+1	526
当社の株主持分	509	+7	+1	516
非支配持分	10			10

## Non-Core(除外)項目

1. 無形資産・合併会計  
 無形資産償却費 : +10億円  
 無形資産減損 : +1億円  
 合併会計 : 該当なし

2. その他の除外事項  
 事業所再編費用 : +2億円  
 環境対策費用 : ▲1億円  
 訴訟費用 : 軽微

Core当期利益  
 (当社株主帰属) 516 億円

希薄化効果後  
 加重平均  
 普通株式数 545 百万株

Core EPS 94.69 円

前年同期比 Core

# 損益の概要 1-12月実績



【億円】	2012年1-12月		2013年1-12月		増減	
	対売上収益		対売上収益			
売上収益	3,866		4,237		+371	+9.6%
製商品売上高	3,752		4,013		+261	+7.0%
タミフルを除く	3,632		3,902		+270	+7.4%
国内	3,209		3,292		+83	+2.6%
ロシュ向け輸出	256		429		+173	+67.6%
その他海外	167		181		+14	+8.4%
タミフル	120		110		▲10	▲8.3%
通常	102		101		▲1	▲1.0%
行政備蓄等	19		9		▲10	▲52.6%
ロイヤルティ及び その他の営業収入	113		224		+111	+98.2%
売上原価	▲ 1,673	43.3%	▲ 1,861	43.9%	▲188	+11.2%
売上総利益	2,193	56.7%	2,376	56.1%	+183	+8.3%
経費計	▲ 1,437	37.2%	▲ 1,577	37.2%	▲140	+9.7%
営業利益	756	19.6%	799	18.9%	+43	+5.7%
金融費用	▲ 0		▲ 0		+0	0.0%
その他の金融収入(支出)	▲ 19		▲ 18		+1	▲5.3%
法人所得税	▲ 262		▲ 255		+7	▲2.7%
当期利益	474	12.3%	526	12.4%	+52	+11.0%
EPS (円)	85.64		94.69		+9.05	+10.6%

## 【主な増減】

ロイヤルティ及びその他の営業収入  
+111億円  
マイルストーン収入の増加等

その他の金融収入(支出) +1億円  
為替差損益 ▲19億円  
デリバティブ損益 +21億円

## 製商品原価率

2012年1-12月	2013年1-12月
44.6%	46.4%

## 期中平均レート(円)

	2012年 1-12月	2013年 1-12月
CHF	85.12	105.24
EUR	102.59	129.51

前年同期比

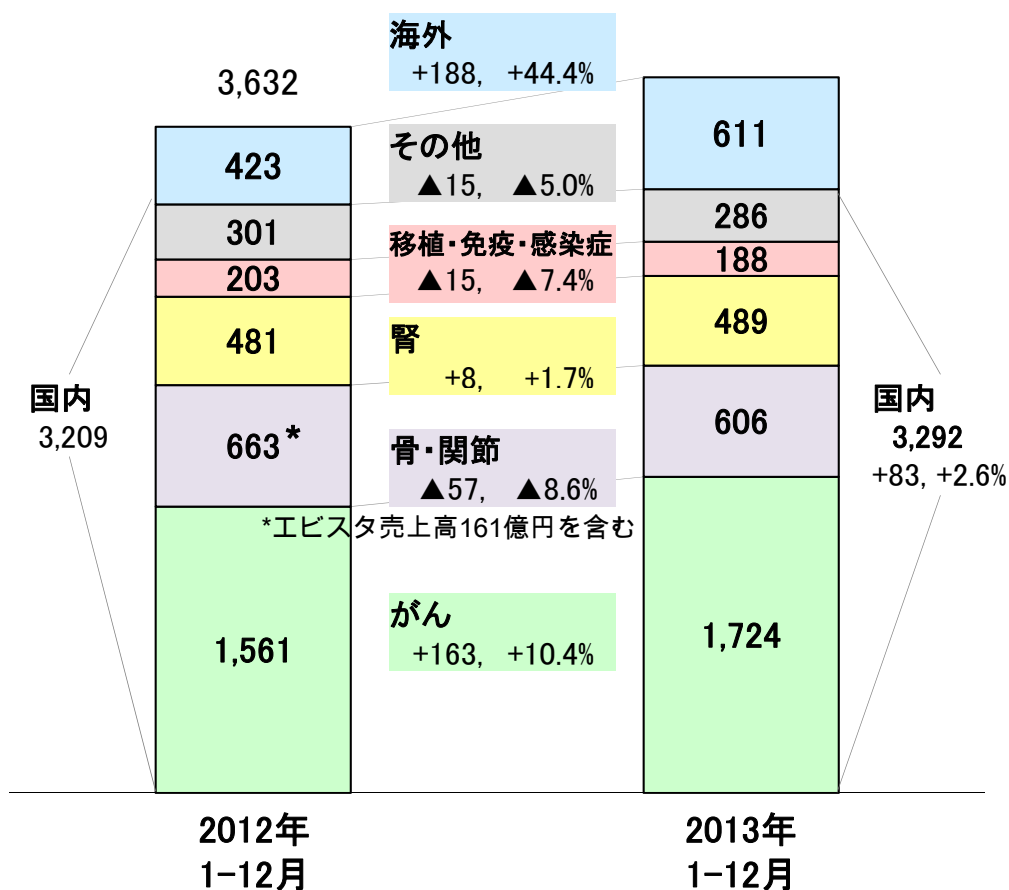
## 製商品売上高（タミフルを除く）の増減内訳 1-12月実績



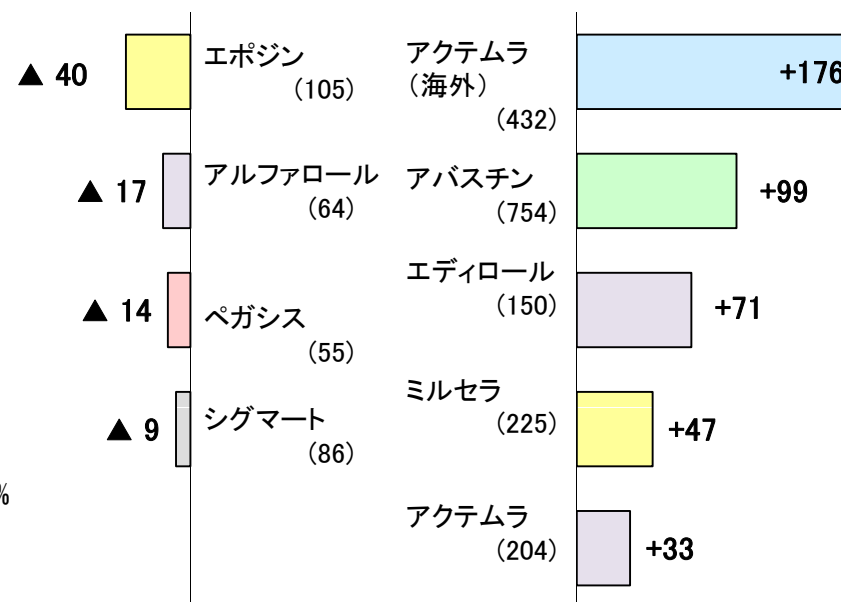
【億円】

製商品売上高（タミフルを除く）

3,902億円（+270, +7.4%）



## 個別製品の主な増減



左図：領域別  
 右図：個別製品  
 （前年同期比、()内は2013年実績）

## タミフルの売上状況



【億円】		決算期売上										予想		シーズン 売上	定 点 観 測 数 (百万人)
		2009年12月期		2010年12月期		2011年12月期		2012年12月期		2013年12月期		2014年12月期			
		1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月		
通常	2008-09	110												167	1.27
	2009-10		252	14										266	2.02
	2010-11				2	41								43	1.26
	2011-12						13	78						91	1.63
	2012-13								24	82				106	1.11
	2013-14										19	75		94	-
	2014-15												13	-	-
通常		362 (+291)		16 (▲346)		54 (+38)		102 (+48)		101 (▲1)		88 (▲13)			

行政 備蓄等	2008-09	144												155	
	2009-10		256	106										362	
	2010-11				59	5								64	
	2011-12						28	4						32	
	2012-13								15	8				23	
	2013-14										1	1		2	
	2014-15												0	-	
行政備蓄等		400 (+387)		166 (▲234)		33 (▲133)		19 (▲14)		9 (▲10)		1 (▲8)			

合計		254	508	120	61	46	41	81	39	90	20	75	13		
		762 (+678)		182 (▲580)		87 (▲95)		120 (+33)		110 (▲10)		88 (▲22)			

黄色の網掛けは予想値、()内は前期比

\* 国立感染症研究所「感染症発生動向調査」 10月下旬から4月中旬(2009-10シーズンは2009年7月初旬から2010年3月中旬)の合計患者数

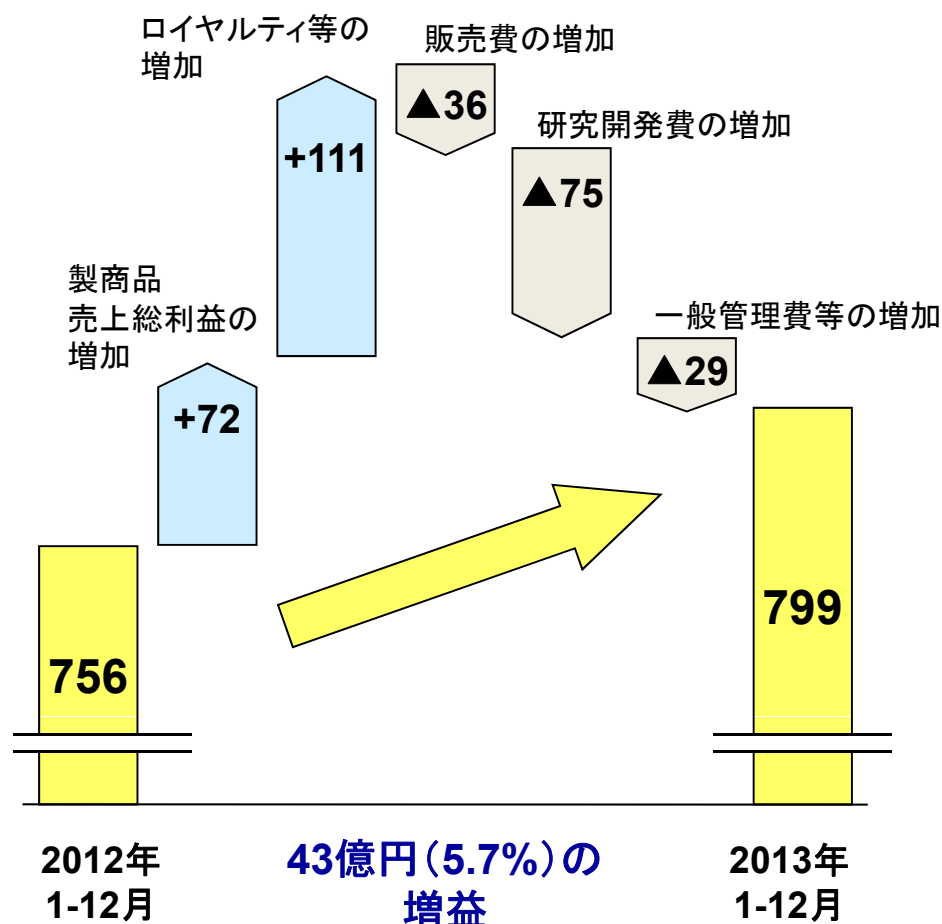
前年同期比 Core

2013年12月期 連結決算概要



# 営業利益の増減内訳 1-12月実績

【億円】



【億円】	2012年 1-12月	2013年 1-12月	増減
売上収益	3,866	4,237	+371
売上原価	▲ 1,673	▲ 1,861	▲188
売上総利益	2,193	2,376	+183
うち製商品	2,080	2,152	+72
ロイヤルティ等	113	224	+111
販売費	▲ 679	▲ 715	▲36
研究開発費	▲ 666	▲ 741	▲75
一般管理費等	▲ 92	▲ 121	▲29
営業利益	756	799	+43

製商品売上総利益の増加	+72億円
新製品、海外アクテムラの増加	
ロイヤルティ及びその他の営業収入の増加	+111億円
販売費の増加	▲36億円
新製品の販促活動増、円安による海外販社経費増 等	
研究開発費の増加	▲75億円
円安影響、CPR*活動増、設備等の更新 等	
一般管理費等の増加	▲29億円
諸経費の増加	

前年同期比 Core

2013年12月期 連結決算概要



# 損益の概要 10-12月実績

【億円】	2012年10-12月		2013年10-12月		増減	
	対売上収益		対売上収益			
売上収益	1,110		1,171		+61	+5.5%
製商品売上高	1,066		1,125		+59	+5.5%
タミフルを除く	1,028		1,105		+77	+7.5%
国内	910		948		+38	+4.2%
ロシュ向け輸出	74		116		+42	+56.8%
その他海外	44		41		▲3	▲6.8%
タミフル	38		20		▲18	▲47.4%
通常	23		19		▲4	▲17.4%
行政備蓄等	15		1		▲14	▲93.3%
ロイヤルティ及び その他の営業収入	43		46		+3	+7.0%
売上原価	▲ 467	42.1%	▲ 536	45.8%	▲69	+14.8%
売上総利益	643	57.9%	636	54.3%	▲7	▲1.1%
経費計	▲ 402	36.2%	▲ 427	36.5%	▲25	+6.2%
営業利益	240	21.6%	209	17.8%	▲31	▲12.9%
金融費用	▲ 0		0		+0	-
その他の金融収入(支出)	▲ 6		▲ 4		+2	▲33.3%
法人所得税	▲ 78		▲ 74		+4	▲5.1%
四半期利益	156	14.1%	131	11.2%	▲25	▲16.0%

## 【主な増減】

ロイヤルティ及びその他の営業収入  
+3億円

ロイヤルティ等の増加

経費計 ▲25億円

販売費 ▲5億円  
円安影響、新製品発売に伴う  
販促活動増加等

研究開発費 ▲15億円  
円安影響、CPR活動増等

一般管理費等 ▲5億円  
諸経費の増加

## 製商品原価率

2012年10-12月	2013年10-12月
43.8%	47.6%

予想比 Core

2013年12月期 連結決算概要

# 損益の概要 1-12月実績



Roche ロシュ グループ

【億円】	実績		期初公表	
	2013年 1-12月	2013年 1-12月	+/-	達成率
売上収益	4,237	4,160	+77	101.9%
製商品売上高	4,013	3,943	+70	101.8%
タミフルを除く	3,902	3,855	+47	101.2%
国内	3,292	3,293	▲1	100.0%
ロシュ向け輸出	429	406	+23	105.7%
その他海外	181	156	+25	116.0%
タミフル	110	88	+22	125.0%
ロイヤルティ及び その他の営業収入	224	217	+7	103.2%
売上原価	▲ 1,861	▲ 1,832	▲29	101.6%
売上総利益	2,376	2,328	+48	102.1%
経費計	▲ 1,577	▲ 1,553	▲24	101.5%
営業利益	799	775	+24	103.1%
EPS (円)	94.69	92.57	+2.12	102.3%

予想比 Core

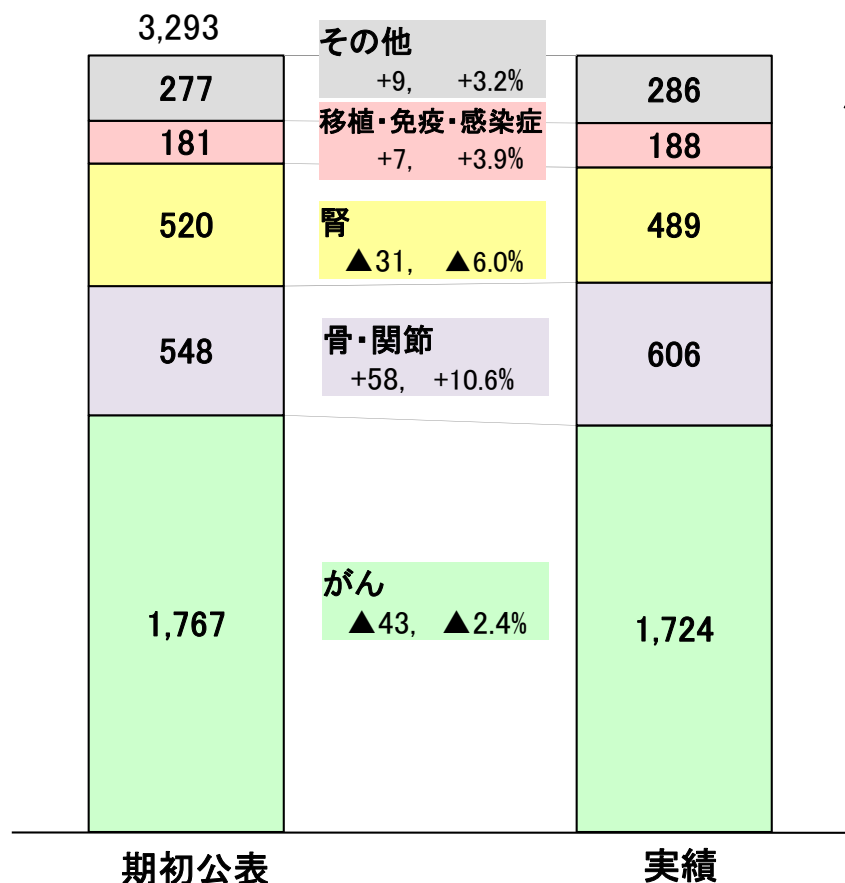
## 国内製商品売上高（タミフルを除く） 1-12月実績



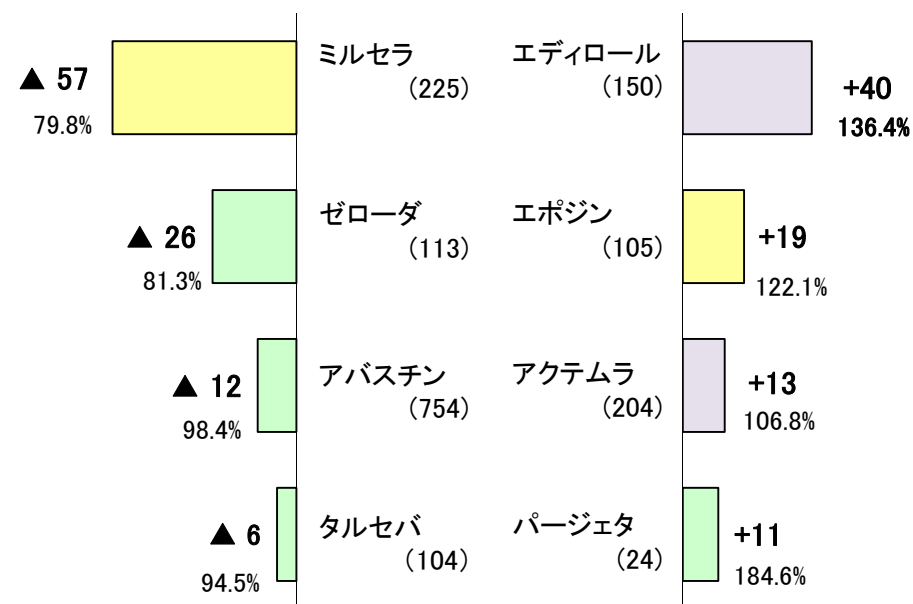
【億円】

国内製商品売上高（タミフルを除く）

3,292億円（▲1, 達成率100.0%）



## 個別製品の主な増減



パージェタ、ボンビバの予想値は10月25日公表

左図: 領域別

右図: 個別製品

(予想比、()内は2013年実績、%は達成率)



予想比 Core

2013年12月期 連結決算概要

## 為替変動の影響について

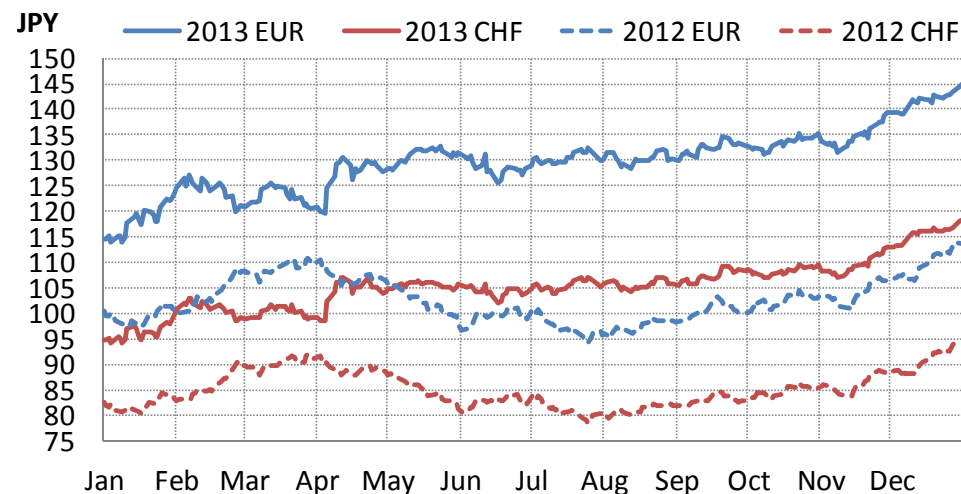


	1-12月利益影響 (期初公表想定レート対比)
売上収益	<b>+76億円</b>
	製商品売上高 +65億円 ロイヤルティ等 +11億円
原価・経費	原価 ▲74億円 経費 ▲24億円
営業利益	<b>▲22億円</b>

実績/想定レート*	1CHF	1EUR
期初予想 想定(通期)	95.00円	115.00円
1-12月実績	105.24円	129.51円
参考:2012年1-12月実績	85.12円	102.59円

\*実績は期中市場平均

参考:為替レート推移(CHF, EUR)



前期末比

# 財政状態の変化



## <資産、負債及び純資産の状況>

【億円】	2012年 12月末	2013年 12月末	増減
営業債権	1,157	1,111	▲ 46
棚卸資産	1,084	1,285	+ 201
営業債務	▲ 418	▲ 359	+ 59
その他の純運転資本*2	▲ 244	▲ 266	▲ 22
<b>純運転資本</b>	<b>1,579</b>	<b>1,771</b>	<b>+ 192</b>
有形固定資産	1,431	1,404	▲ 27
無形資産	65	95	+ 30
その他の長期純営業資産*3	4	▲ 18	▲ 22
<b>長期純営業資産</b>	<b>1,500</b>	<b>1,481</b>	<b>▲ 19</b>
<b>純営業資産 (NOA) *4</b>	<b>3,079</b>	<b>3,252</b>	<b>+ 173</b>
有利子負債	▲ 3	▲ 2	+ 1
有価証券	1,165	1,196	+ 31
現金及び現金同等物	954	1,151	+ 197
<b>ネット現金</b>	<b>2,117</b>	<b>2,344</b>	<b>+ 227</b>
その他の営業外純資産*5	96	136	+ 40
<b>純営業外資産</b>	<b>2,213</b>	<b>2,480</b>	<b>+ 267</b>
<b>純資産合計</b>	<b>5,292</b>	<b>5,732</b>	<b>+ 440</b>
<b>純資産合計</b>	<b>5,292</b>	<b>5,732</b>	<b>+ 440</b>
資産合計	6,453	6,972	+ 519
負債合計	▲ 1,162	▲ 1,240	▲ 78

\*1 期末日レート

CHF	94.16	118.42	+ 24.26
EUR	113.68	145.16	+ 31.48
USD	86.02	105.16	+ 19.14

\*2 例:未払金、未払費用等 \*3 例:長期前払費用、繰延収益等 \*4 NOA:Net Operating Assets

\*5 例:繰延税金資産、未払法人所得税等

## 【主な増減】

- 純運転資本の増加 +192億円
- 棚卸資産の増加 +201億円
- 安定供給リスク対応・円安影響・新製品の初期荷揃え等

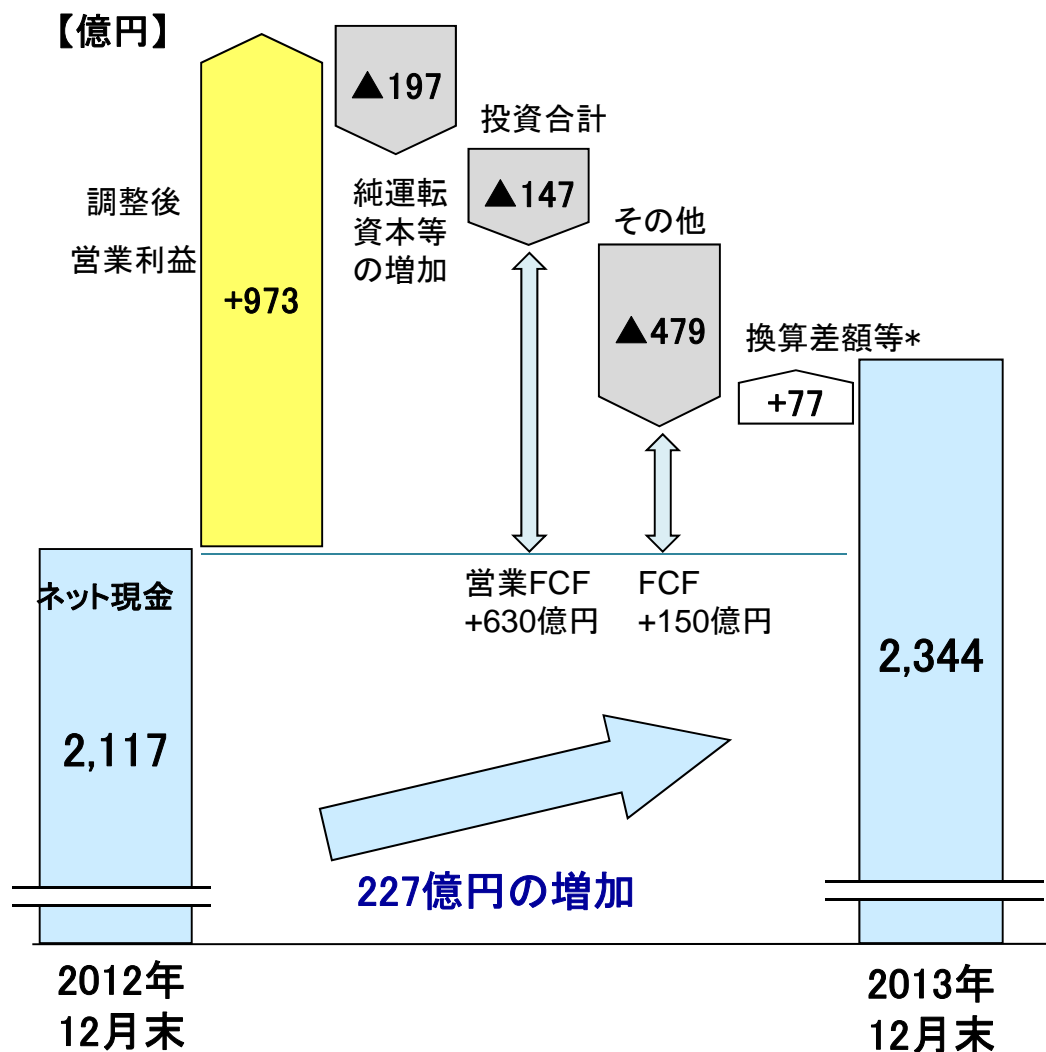
- 長期純営業資産の減少 ▲19億円
- 有形固定資産の減少 ▲27億円
- 無形資産の増加 +30億円
- 製品関連の導入一時金投資
- その他の長期純営業資産の減少 ▲22億円
- 製品導出に伴う繰延収益の発生

- ネット現金の増加 +227億円

- 当社の株主持分に帰属する資本割合 +0.2%pts
- 2013年12月末 82.0%
- 2012年12月末 81.8%

前期末比

# ネット現金の増減内訳



●調整後営業利益	+973億円
営業利益	+787億円
減価償却費等	+185億円
●純運転資本等の増加	▲197億円
棚卸資産の増加	▲205億円
●投資合計	▲147億円
有形固定資産の取得	▲113億円
主に研究・工場設備の経常的投資	
無形資産の取得	▲34億円
●その他	▲479億円
支払法人所得税	▲238億円
支払配当金	▲239億円

\*「換算差額等」＝「自己株式の減少(増加)」+「ネット現金の換算差額等」[P.28に記載]

前年同期比

## フリー・キャッシュ・フローの概要 1-12月実績



【億円】	2012年 1-12月	2013年 1-12月	増減
営業利益	747	787	+ 40
有形固定資産の減価償却費及び減損損失	136	152	+ 16
無形資産の償却費及び減損損失	9	11	+ 2
営業利益へのその他の調整	▲ 9	23	+ 32
調整後営業利益	882	973	+ 91
営業債権の増減額(▲:増加)	▲ 64	49	+ 113
棚卸資産の増減額(▲:増加)	▲ 54	▲ 205	▲ 151
営業債務の増減額(▲:減少)	243	▲ 60	▲ 303
その他の純運転資本等の変動	59	19	▲ 40
純運転資本等の(増加)減少	184	▲ 197	▲ 381
有形固定資産の取得による支出	▲ 148	▲ 113	+ 35
無形資産の取得による支出	▲ 8	▲ 34	▲ 26
投資合計	▲ 156	▲ 147	+ 9
営業フリー・キャッシュ・フロー	910	630	▲ 280
売上収益比率(%)	23.5%	14.9%	▲ 8.7%pts
財務管理	▲ 35	▲ 2	+ 33
支払法人所得税	▲ 255	▲ 238	+ 17
支払配当金	▲ 227	▲ 239	▲ 12
フリー・キャッシュ・フロー	393	150	▲ 243
自己株式の減少(増加) } *2	0	8	+ 8
ネット現金の換算差額等	28	69	+ 41
ネット現金の純増減*2	422	227	▲ 195

\*1 期中平均レート

CHF	85.12	105.24	+ 20.12
EUR	102.59	129.51	+ 26.92
USD	79.81	97.54	+ 17.73

\*2 「換算差額等[P27に記載]」＝「自己株式の減少(増加)」+「ネット現金の換算差額等」

## 【主な増減】

## ●調整後営業利益

+91億円

売上収益の増加

## ●純運転資本等の増減

▲381億円

仕入支払の増加

棚卸資産の増減

▲151億円

買掛金の増減

▲303億円

## ●投資合計

+9億円

## ●営業フリー・キャッシュ・フロー

▲280億円

売上収益は増加、一方で安定供給リスク対応・円安影響・新製品の初期荷揃えに伴い、仕入支払が大きく増加

## ●売上収益比率

▲8.7%pts

売上収益

+371億円



# 損益の概要 2014年1-12月予想

【億円】	実績		予想		増減	
	2013年1-12月		2014年1-12月			
	対売上収益		対売上収益		(%)	
売上収益	4,237		4,510		+273	+6.4%
製商品売上高	4,013		4,270		+257	+6.4%
タミフルを除く	3,902		4,182		+280	+7.2%
国内	3,292		3,357		+65	+2.0%
ロシュ向け輸出	429		646		+217	+50.6%
その他海外	181		179		▲ 2	▲1.1%
タミフル	110		88		▲ 22	▲20.0%
通常	101		88		▲ 13	▲12.9%
行政備蓄等	9		1		▲ 8	▲88.9%
ロイヤルティ及び その他の営業収入	224		240		+16	+7.1%
売上原価	▲ 1,861		▲ 2,130		▲ 269	+14.5%
売上総利益	2,376	56.1%	2,380	52.8%	+4	+0.2%
経費計	▲ 1,577	37.2%	▲ 1,670	37.0%	▲ 93	+5.9%
営業利益	799	18.9%	710	15.7%	▲ 89	▲11.1%
EPS（円）	94.69		82.62		▲ 12.07	▲12.7%

## 製商品原価率

2013年1-12月	2014年1-12月
46.4%	49.9%

## 為替レート(円)

	2013年実績	2014年想定
CHF	105.24	116.00
EUR	129.51	142.00

次期予想 (Core)

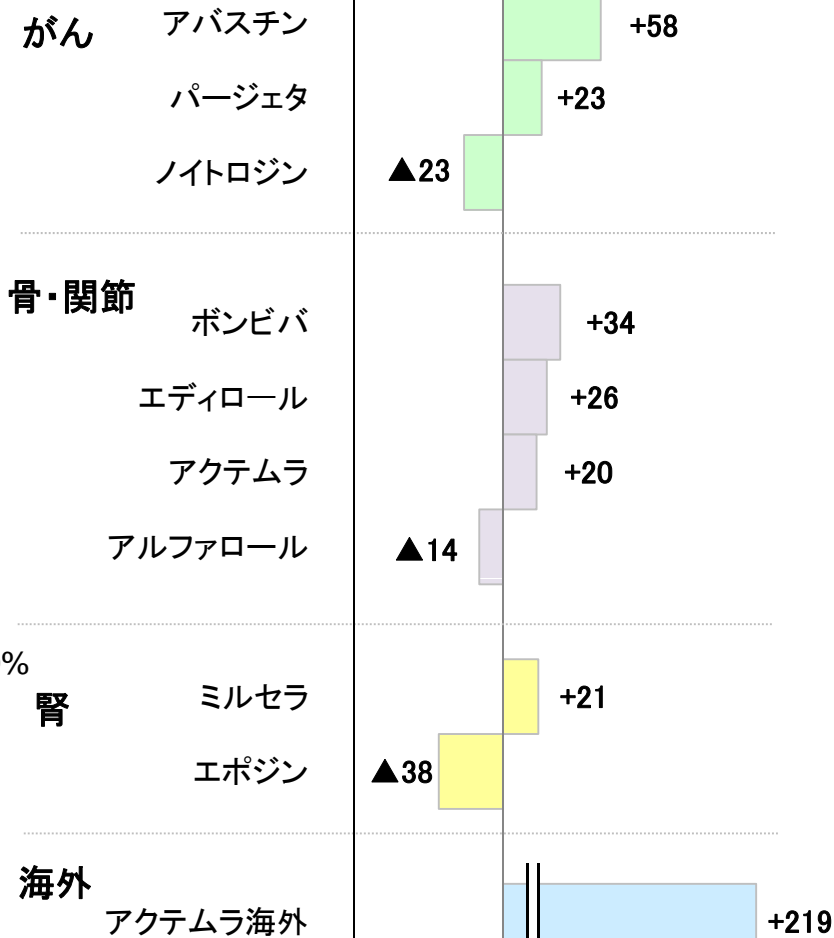
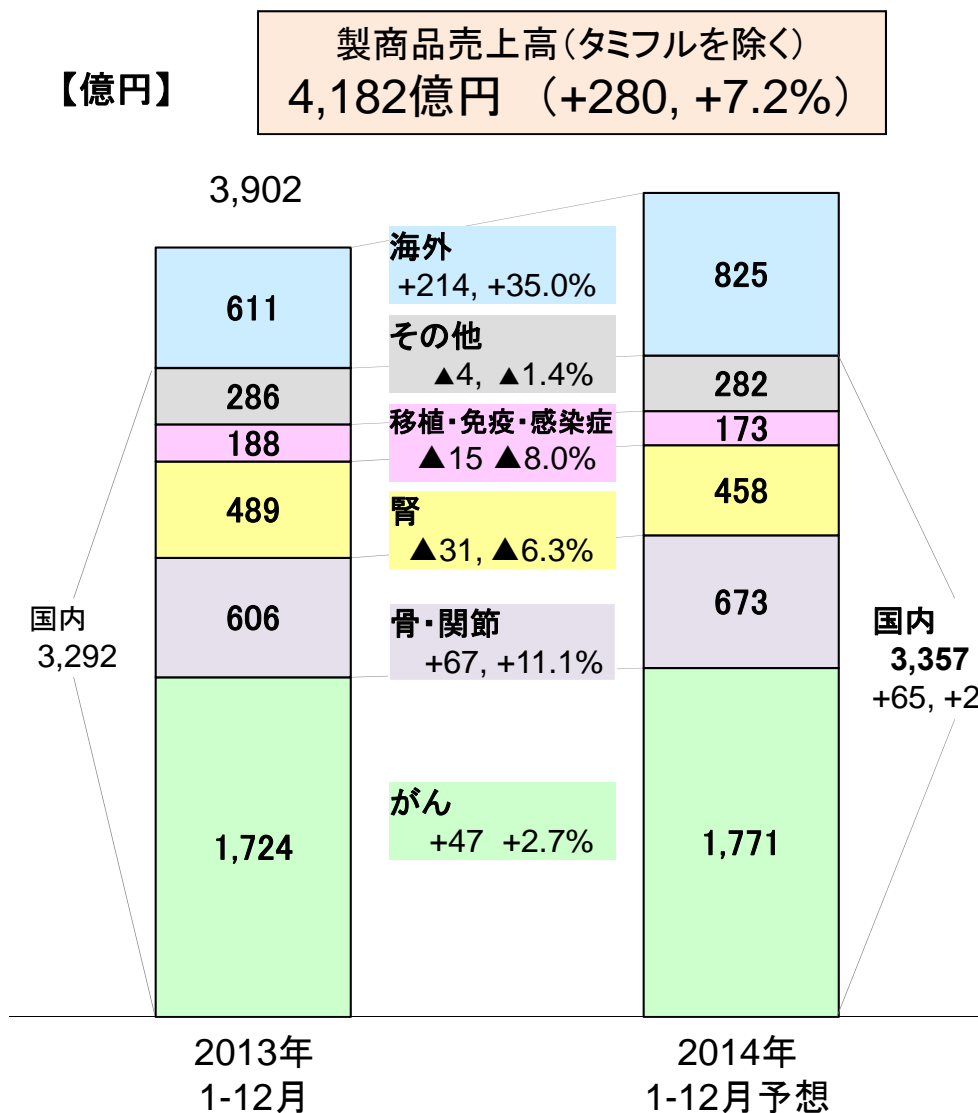
2013年12月期 連結決算概要



# 製商品売上高 前同対比増減

【億円】

製商品売上高(タミフルを除く)  
4,182億円 (+280, +7.2%)



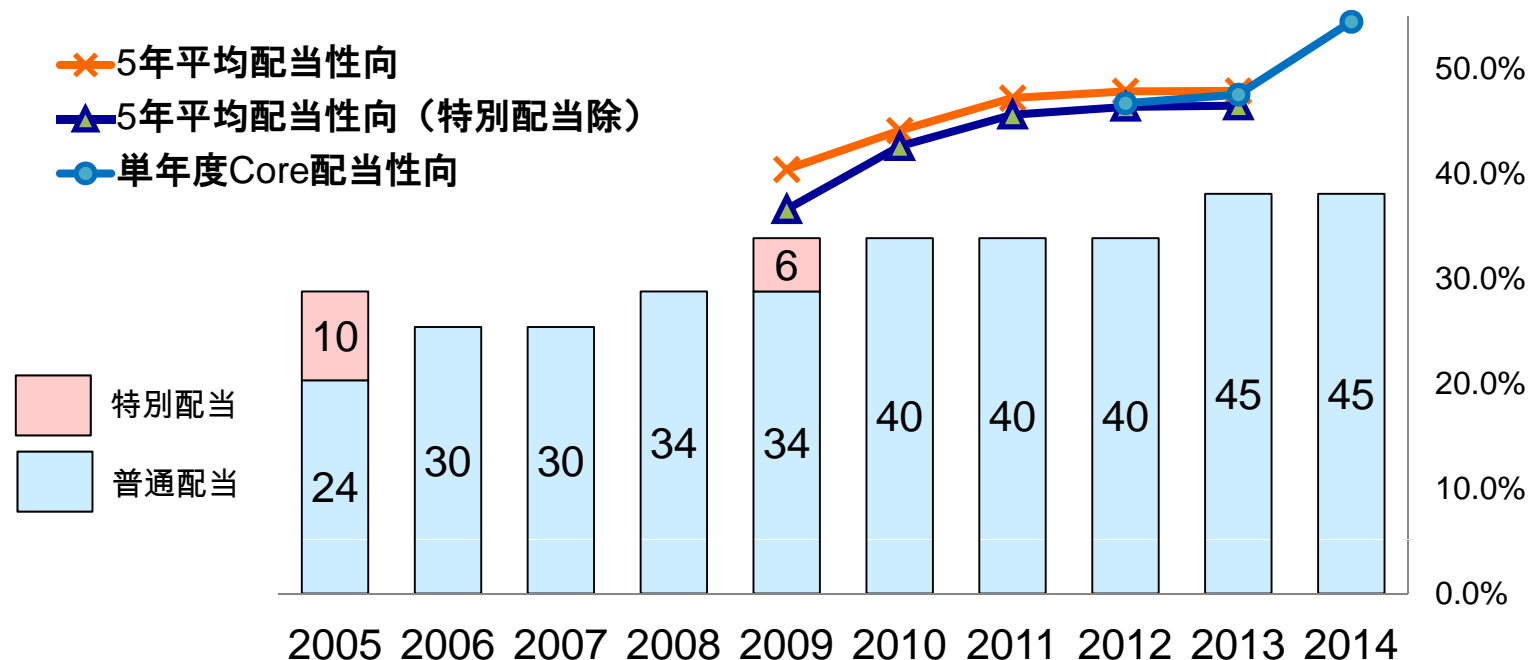
# 利益配分の方針及び当期・次期の配当



## ■ 方針

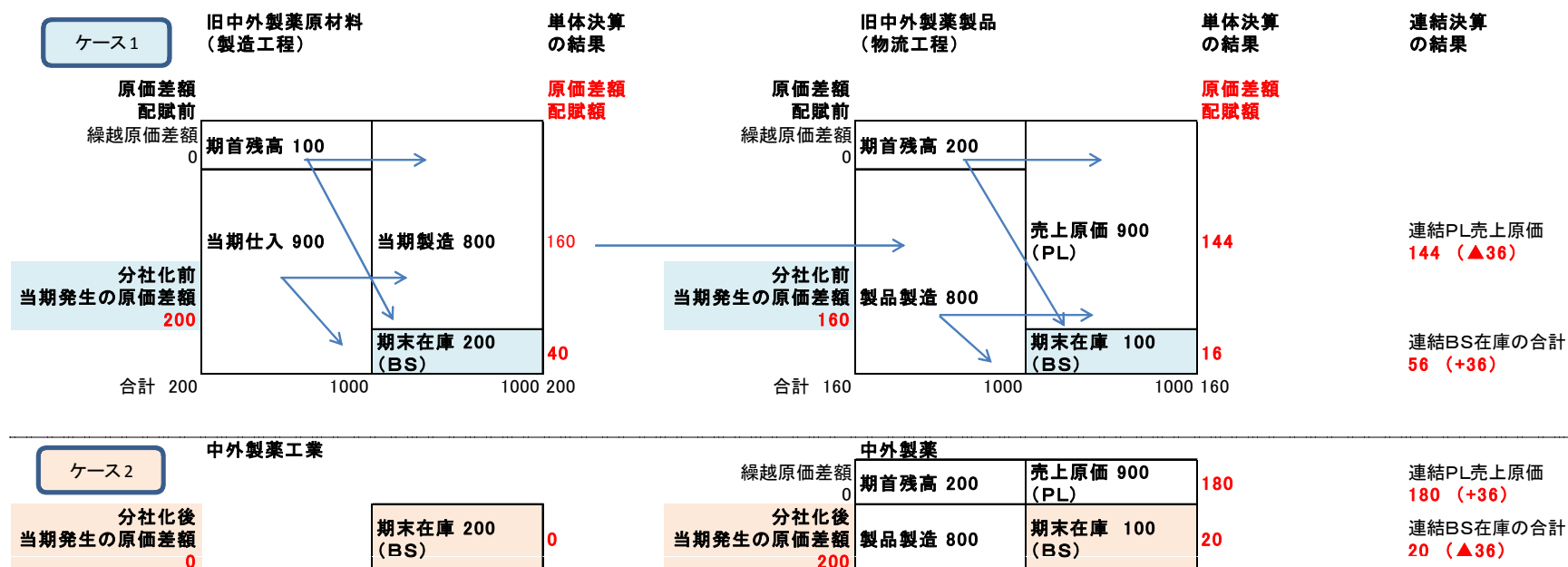
戦略的な投資資金需要や業績見通しを勘案した上で、Core EPS対比平均50%の配当性向を目処に、株主の皆様へ安定的な配当を行うことを目標とする

- 2013年12月期の年間配当(予定) 45円: 22円+23円
- 2014年12月期の年間配当(予想) 45円: 22円+23円



&lt;参考&gt;

## 原価差額の配賦手続き



## &lt;購入価格差異(原価差額)の配賦方法の見直し&gt;

分社化前は中外製薬に製造工程があり、購入価格差異は原材料の配賦計算の中で行なっていた。

分社後、中外製薬が仕入れ、中外製薬工業が製造。購入価格差異は中外製薬で計上され、中外製薬工業には標準原価で有償支給し、購入価格差異は、中外製薬の製品の配賦計算に含めていた。

↓

連結決算で、中外製薬工業の計算結果と中外製薬の計算結果を合算(連結)したが、分社化前と計算結果が違う。

購入価格差異の発生額の重要性が小さいときは、計算結果の違いも小さく、許容された。  
2013年第3四半期において、円安の影響が大きく、分社化前の計算結果と同じにする必要があると判断した。  
なお、連結決算上だけの調整(各単体決算は法人格が別なので、変更なし)

(注意) 配賦計算の方法(2回と1回との)違いのしくみをご説明する目的で、決算上の数値とは一致していません。

分社化前	分社化後
・製造工程(中外製薬)で配賦計算(1次)し、 ・物流工程(中外製薬)で配賦計算(2次)。	・製造工程(中外製薬工業)で配賦計算しない。 ・物流工程(中外製薬)で配賦計算(1次)のみ。

文中の表記

中外製薬: 中外製薬株式会社の略

中外製薬工業: 中外製薬工業株式会社の略



# 開発パイプラインの状況

中外製薬株式会社  
常務執行役員  
プロジェクト・ライフサイクル マネジメントユニット長  
田中 裕

2014.1.30/31

# オンコロジー領域 開発パイプライン (2014年1月30日現在)

開発パイプラインの状況



	Phase I	Phase II	Phase III	Filed
がん	CIF / RG7167 (国内/海外) -固形がん CKI27 / RG7304 (国内/海外) -固形がん PA799 (海外) -固形がん RG7414 / parsatuzumab (EGFL7) ★ -固形がん RG7321 / pictilisib -固形がん RG7446 / MPDL3280A -固形がん	GC33 / RG7686 -肝がん RG340 / Xeloda - 胃がん (アジュバント) AF802 (RG7853) / alectinib (海外) -非小細胞肺癌 (PI/II) RG7204 / vemurafenib -悪性黒色腫 (PI/II)	RG1273 / Perjeta -乳がん (アジュバント) -胃がん RG435 / Avastin -乳がん (アジュバント) RG3502 / Kadcyla ★ -胃がん (PII/III) RG3638 / onartuzumab -非小細胞肺癌 GA101 (RG7159) / obinutuzumab -非ホジキンリンパ腫	AF802 (RG7853) / alectinib (国内) -非小細胞肺癌

オレンジ：自社品

★：2013/10/25からの変更点

★：ロシュ社は2013年10月にパイプラインから削除

# プライマリー領域 開発パイプライン (2014年1月30日現在)



	Phase I	Phase II	Phase III	Filed
骨・関節			RG484 / Bonviva (経口) - 骨粗鬆症 NRD101 / Suvenyl - 腱靱帯付着部症	
自己免疫疾患	SA237 - 関節リウマチ RG7415 / rontalizumab ★ - 全身性エリテマトーデス	MRA / Actemra (海外) - 全身性強皮症	MRA / Actemra (海外) - 巨細胞性動脈炎	MRA / RoActemra (欧州) - 関節リウマチ (SC)
中枢神経	RG1450 / gantenerumab - アルツハイマー病 RG1577 - アルツハイマー病	RG7090 - 大うつ病	RG1678 / bitopertin - 統合失調症	
その他	RG7652 (海外) ★ - 高脂血症 URC102 (韓国) - 痛風	CIM331 ★★ - アトピー性皮膚炎 ACE910 - 血友病A (PI/II)	RG3637 / lebrikizumab - 気管支喘息	

オレンジ：自社品

★：2013/10/25からの変更点

★：ロシュ社は導出を検討中

★：中外主導の国際共同治験



## 開発の状況（オンコロジー領域）

---

導入品

**RG435 / アバスチン®**

卵巣がん

2013年11月 承認

導入品

**RG7446 / MPDL3280A（改変型抗PD-L1抗体）**

非小細胞肺がん

2014年上期 国際共同P3開始予定



## 開発の状況（プライマリー領域）

---

自社品

**MRA / アクテムラ®**

皮下注製剤

関節リウマチ

2013年11月 申請 (台湾)

2013年12月 承認勧告受領 (欧州)

自社品

**SA237（抗IL-6レセプター抗体）**

視神経脊髄炎

2014年上期 国際共同P3開始予定（中外主導）



## 開発の状況（プライマリー領域）

自社品

**ACE910（抗factor IXa × 抗factor X 二重特異性抗体）**  
血友病A

2013年12月 希少疾病用医薬品指定（欧州）

2014年 1月 希少疾病用医薬品指定（米国）

自社品

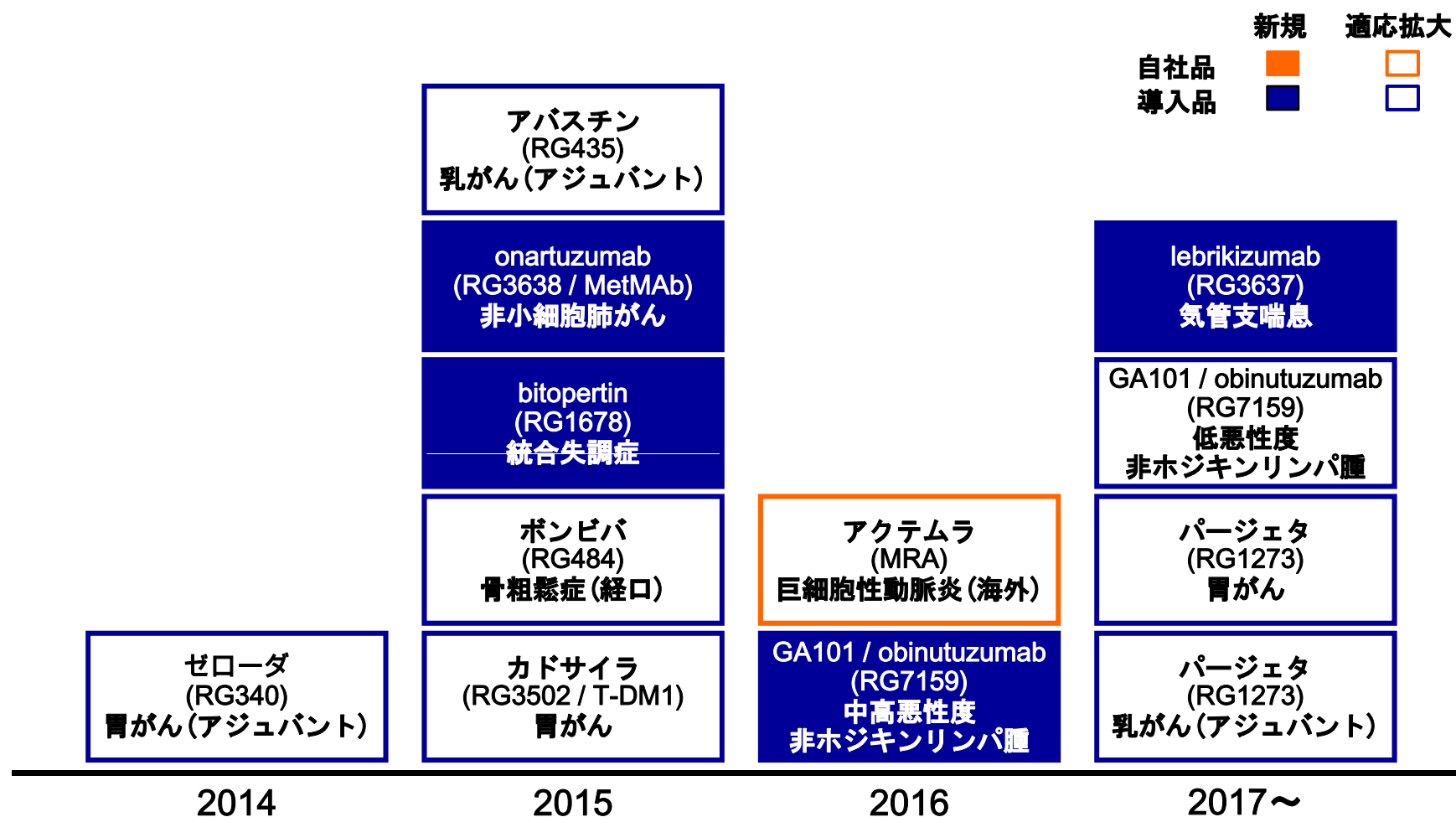
**CIM331（抗IL-31レセプター抗体）**  
アトピー性皮膚炎

2013年12月 国際共同P2開始（中外主導）



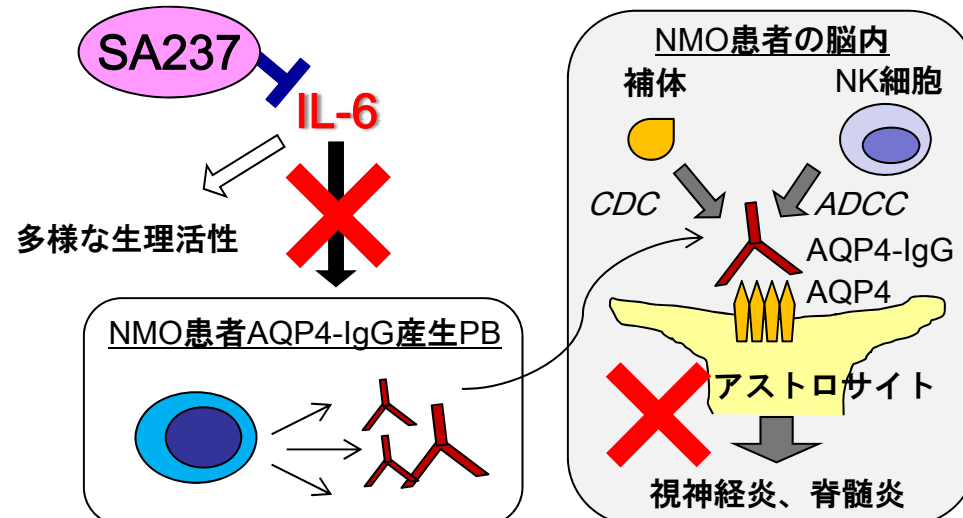
## 今後の申請予定（PoC取得済製品・開発品）

### ■ 引き続き毎年、新製品/適応拡大等を申請予定



## SA237 - 視神経脊髄炎は有望な適応症

- 視神経脊髄炎 (neuromyelitis optica: NMO)
  - 重度の視神経炎と横断性脊髄炎を特徴とする中枢性免疫疾患
  - 既承認薬はなくアンメット・メディカル・ニーズが高い希少疾患
  - 有病率は10万人あたり0.3-4.4人
- IL-6はNMOの病態形成に関与
  - 抗IL-6レセプター抗体は、病原性自己抗体の抗アクアポリン4抗体 (AQP4-IgG) を産生するプラズマブラスト (PB) の生存を抑制<sup>1)</sup>
- Tocilizumabの小規模臨床試験での有効性データがPoCの根拠<sup>2, 3, 4)</sup>
  - 再発抑制に加え、疲労等を軽減



1. Proc Natl Acad Sci USA 2011; 108:3701-6

2. Mod Rheumatol. 2013; 23(4):827-31

3. JAMA Neurol. 2013; 70(3):390-3

4. JAMA Neurol. 2013; 70(3):394-7





## 未承認薬・適応外薬の開発要請への対応状況

- 医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議
  - 第I回開発要請の8製品10適応症（用法・用量の追加を含む）はすべて承認済み
  - 第II回開発要請は3製品3適応症

開発要請	製品	適応症	現在の開発状況
第I回要望 開発要請品	アバスチン	卵巣癌	承認（2013年11月22日）
第II回要望 開発要請品	アバスチン	再発膠芽腫	悪性神経膠腫として承認 （2013年6月14日）
	ハーセプチン	HER2過剰発現が確認された乳がんにおける術後補助化学療法への1週間間隔投与	承認（2013年6月14日）
	セルセプト	ループス腎炎	開発要請に対する企業見解につき検討会議での評価待ち

赤字:2013/7/25からの変更点

# お問い合わせ先：広報IR部

報道関係者の皆様：

メディアリレーションズグループ

Tel : 03-3273-0881

e-mail : [pr@chugai-pharm.co.jp](mailto:pr@chugai-pharm.co.jp)

担当：原田、河原、荒木、吉村

投資家の皆様：

インベスターリレーションズグループ

Tel : 03-3273-0554

e-mail : [ir@chugai-pharm.co.jp](mailto:ir@chugai-pharm.co.jp)

担当：宮田、櫻井、清水、熊谷